



## Informazione n.3

2023年6月19日 カマルドリ

親愛なる姉妹の皆さん、養成中の若い人たち、師イエスの友、ミッションの協力者、パウロ家族のメンバーの皆さん、わたしたちの総会の旅路の中で、ここであらためてわたしたち自身のことをお話しさせていただきます。

わたしたちは、本当に濃密な日々を過ごしており、あっという間に過ぎていきますが、同時に、まるでずっとここで一緒に暮らしてきたかのようでもあります。なぜなら、わたしたちは、言葉が「バベル（混乱）」中にあっても、一致をもたらす聖霊に導かれている異文化間の総会であると感じるからです。



6月14日、わたしたちは総会の動きの新しい段階である「照らされる段階」を開始しました。1日目は、サレジオ教皇庁大学講師で、教育学と召命司牧を専門とするマリオ・オスカル・ラノス師 (sdb) が指導してくださいました。彼は「統合的な養成が美の源となるために」というテーマで、次のような質問に答えることを示唆してくださいました。

「今日、統合的な養成を生きるとはどういうことなのか。そして、統合的な養成が美の源泉となるための具体的な方法は何なのでしょう。」マリオ神父は、この問いを出発点として、集会での分かち合いを挟みながら、講義を発展させてくださいました。わたしたちはこの内省の時間を、出会いの女性であるマリアとエリザベットで締めくくりました。「今日、わたしは誰と人間性の美しさを分かち合い、共に存在の深みへと飛躍し、主の御業に感謝したいのでしょうか。どのような土台の上に人間関係を築くのでしょうか。神様は、小さなことから始まる愛に基づく社会のために、わたしたちが協力することを求めているのです。」

「照らされる段階」の2日目は、特にパウロ色で彩られました。

聖パウロ会の副総長であるボグスワフ・ゼマン師が、わたしたちの総会の活動に寄り添い、以下のテーマについて講演してくださいました：「パウロ家の使命における相互補完性」。当然ながら、このテーマは、ミッションの現実だけでなく、パウロ家のアイデンティティそのものに触れるものであり、わたしたちの興味を生き生きとかきたてるものでした。自らを「パウロ・ファミリー」と呼ぶこと、そして「パウロ・ファミリー」であることは、パウロのカリスマの本質的な特徴の一つです。ボグスワフ師は、まず「相互補完性」という言葉の意味を考え、次にこの特徴を家族としてのわたしたちの歴史、福者ヤコブ・アルベリオーネの残した遺産、そして最後に今日のミッションにおけるパウロ家族の相互補完性に求めるようわたしたちを促してくださいました。最後に、創世記2章23節に触

れ、「あなたはわたしの骨から出た骨、わたしの肉から出た肉である。あなたが生きて、わたしの使命を果たすためには、あなたが必要なのです」と結ばれました。

6月16日、わたしたちは大きな喜びとともに、聖カタリナの足跡をたどるシエナへの1日の訪問・巡礼を行いました。シエナでのガイドは Sr.M.レジーナ・チェザラートで、この中世の街の美しさを味あわせてくださいました。晴天に恵まれたことに感謝しながら、カマルドリに戻りました。

「第10回総会」のホームページ <https://www.pddm.org/10-capitolo-generale/galleria/> に掲載された写真がわたしたちの様子をお知らせしています。



6月17日18日には、「作業文書」を個人的に読み、共有し、深めることになっていました。このように、この総会では、修道会全体、普遍的教会と地方教会、今日の社会と被造物、時代を反映した挑戦と変化によって特徴づけられる現実を見据える識別プロセスが続きました。

わたしたちが手にしている「作業文書」は、修道会の各地区がそれぞれ深めた成果です；第10回総会の準備委員会は、地区管区から様々な成果を集め、それが朝焼けの星となって、明るく輝きながら、総会の識別を導いています。識別の方法は、シノドスの旅で学んだ霊的な対話です。

わたしたちの上に吹き、すべてのものを新しくしてくださる聖霊は、皆様の祈りにも感謝しつつ、神がわたしたちのために賢明に導かれた個別の呼びかけを確認するようわたしたちを招いてくださいます。それは、福音の女性たち、出会いの美しさを生き、今日の世界に使命の喜びを証するために召された復活した師の弟子／使徒となるためです。



今日から、選挙に向けた見極めの段階が始まりますが、皆様のお祈りをお願いします。交わりのうちに。

インフォメーション委員会  
Sr. マリア・デ・ラ・パス・カルボナーリ  
Sr. M. エンマヌエラ・ヴィヴィアーノ